

水稻の8月上旬の巡回調査結果の概要

【東北信】 調査日 8月1日、4日、5日

＜東北信地域の巡回調査ほ場：東信15ほ場、北信14ほ場、計29ほ場＞

1 葉いもち

- (1)発病地点率は、東信地域及び北信地域ともに平年と比べ高かった。
- (2)令和7年7月17日付けで、全県を対象に病害虫発生予察注意報第3号（イネいもち病）を発表し、注意喚起等により対策が講じられた結果、上位葉（止葉および次葉）の発病株率は、ほぼ平年並であった。
- (3)発病度は、東信地域ではほぼ平年並であったが、北信地域では1ほ場において発病度が高かったため、地域全体としては平年と比べやや高かった（写真1）。



写真1 いもち病が上位葉まで進展したほ場（北信地域）

2 紋枯病

- (1)発生地点率は、東信地域では平年と比べやや高く、北信地域では平年と比べ高かった。
- (2)発病株率は、東信地域では平年と比べ高く、北信地域では平年と比べやや高かった。

3 白葉枯病

巡回調査ほ場での発病は確認されなかった。

4 ウンカ類・ツマグロヨコバイ

(1)ヒメトビウンカ

ア すくい取り調査（ネット20回振）における成虫及び幼虫の発生地点率は、東信地域及び北信地域ともに平年と比べ高かった。

イ すくい取り調査における平均捕獲頭数（成虫）は、東信地域及び北信地域ともにほぼ平年並であった。

ウ 25株払落し調査における平均捕獲頭数（成虫及び幼虫）は、東信地域及び北信地域ともにほぼ平年並であった。

(2)セジロウンカ

ア すくい取り調査における成虫の発生地点率は、東信地域及び北信地域ともに平年と比べやや低かった。

イ すくい取り調査における平均捕獲頭数（成虫）は、東信地域及び北信地域ともに平年と比べやや少なかった。

ウ 25 株払落し調査における成虫の平均捕獲頭数は、東信地域及び北信地域ともにほぼ平年並であった。幼虫は、東信地域及び北信地域ともに捕獲されなかった。

(3) トビイロウンカ

巡回調査ほ場では捕獲されなかった。

(4) ツマグロヨコバイ

ア すくい取り調査における成虫の発生地点率は、東信地域及び北信地域ともに平年と比べ高かった。

イ すくい取り調査における捕獲頭数（成虫＋幼虫）は、東信地域は平年並、北信地域は平年と比べ少なかった。

ウ 25 株払落し調査における平均捕獲頭数（成虫＋幼虫）は、東信地域は平年並、北信地域は平年と比べ少なかった。

5 斑点米カメムシ類

(1) すくい取り調査による発病地点率は、東信地域及び北信地域ともに平年と比べかなり高かった。

(2) すくい取り調査による平均捕獲頭数は、東信地域及び北信地域ともに平年と比べかなり多かった。

(3) 斑点米カメムシ類の種類は、アカヒゲホソミドリカスミカメ、アカスジカスミカメ、ホソハリカメムシであった。

6 その他

(1) イナゴ

ア すくい取り調査による発生地点率は、東信地域及び北信地域ともに平年並～やや高かった。

イ すくい取り調査による平均捕獲頭数は、東信地域は平年と比べ少なく、北信地域はほぼ平年並であった。

(2) クサキリ・ササキリ類

ア すくい取り調査による発生地点率は、東信地域及び北信地域ともにほぼ平年並であった。

イ すくい取り調査による平均捕獲頭数は、東信地域はほぼ平年並、北信地域では平年と比べ多かった。

(3) フタオビコヤガ幼虫（イネアオムシ）

ア すくい取り調査による発生地点率は、東信地域及び北信地域ともに平年と比べ高かった。

イ すくい取り調査による平均捕獲頭数は、東信地域及び北信地域ともに平年と比べ多かった。

ウ 25 株払落し調査による発生地点率は、東信地域ではほぼ平年並、北信地域では平年と比べ高かった。

エ 25 株払落し調査による平均捕獲頭数は、東信地域及び北信地域ともにほぼ平年並であった。

(4) 8 月上旬に実施した巡回調査とは別の調査であるが、調査地点に隣接する開花期を迎えた大豆ほ場において、ブチヒゲカメムシ及びホソハリカメムシの寄生が多くみられた。



写真 2 大豆に寄生するブチヒゲカメムシ（北信地域）

【中南信】 調査日 8月1日、4日、5日、6日、8日

＜中南信地域の巡回調査ほ場：南信 15 ほ場、中信 18 ほ場、計 33 ほ場＞

1 葉いもち

- (1) 発病地点率は、南信地域及び中信地域ともにほぼ平年並であった。
- (2) 上位葉（止葉および次葉）への進展は南信地域の調査ほ場でみられ、発病株率は平年と比べ高かった。
- (3) 発病度は、南信地域では平年と比べやや高く、中信地域では低かった。

2 紋枯病

- (1) 発生地点率は、南信地域では平年と比べ低く、中信地域ではやや低かった。
- (2) 発病株率は、南信地域では平年と比べ低く、中信地域ではやや低かった（写真3）。

3 白葉枯病

巡回調査ほ場での発病は確認されなかった。

4 ウンカ類・ツマグロヨコバイ

(1) ヒメトビウンカ

- ア すくい取り調査（ネット 20 回振）における成虫の発生地点率は、南信地域及び中信地域ともに平年並、幼虫については南信地域で平年と比べ高く、中信地域で平年並であった。
- イ すくい取り調査における成虫の平均捕獲頭数は、南信地域で平年並、中信地域で平年と比べ多かった。幼虫については、南信地域及び中信地域ともに多かった。
- ウ 25 株払落し調査における成虫の平均捕獲頭数は、南信地域で平年と比べ少なく、中信地域でやや少なかった。幼虫については、南信地域で少なく、中信地域で多かった。

(2) セジロウンカ

- ア すくい取り調査における成虫の発生地点率は、南信地域で平年と比べ低く、中信地域で高かった。幼虫については南信地域でやや高く、中信地域で高かった。
- イ すくい取り調査における成虫の平均捕獲頭数は、南信地域で平年と比べ少なく、中信地域で平年並であった。幼虫については中信地域で平年と比べてやや多く、南信地域で多かった。
- ウ 25 株払落し調査における成虫の平均捕獲頭数は、南信地域では平年より少なく、中信地域では捕獲されなかった。

(3) トビイロウンカ

巡回調査ほ場では捕獲されなかった。

(4) ツマグロヨコバイ

- ア すくい取り調査における成虫の発生地点率は、南信地域では平年と比べやや少なく、中信地域では多かった。
- イ すくい取り調査における捕獲頭数（成虫＋幼虫）は、南信地域では平年と比べやや少なく、中信地域では多かった。
- ウ 25 株払落し調査における平均捕獲頭数（成虫＋幼虫）は、南信地域及び中信地域ともに平年と比べ多かった。

5 斑点米カメムシ類

- (1) すくい取り調査による発生地点率は、南信地域で平年並、中信地域で平年と比べ高かった。
- (2) すくい取り調査による平均捕獲頭数は、南信地域及び中信地域ともに平年と比べ多かった
- (3) 斑点米カメムシ類の種類は、アカヒゲホソミドリカスミカメ、アカスジカスミカメ、ホソハリカメムシ、トゲシラホシカメムシ類であった。アカスジカスミカメが南信地域及び中信地域ともに平年と比べ多く、ホソハリカメムシが南信地域で平年と比べて多かった。

6 その他

(1) イナゴ

ア すくい取り調査による発生地点率は、南信地域及び中信地域ともに平年と比べ低かった。

イ すくい取り調査による平均捕獲頭数は、南信地域及び中信地域ともに平年と比べ少なかった。

(2) クサキリ・ササキリ類

ア すくい取り調査による発生地点率は、南信地域及び中信地域ともに平年並であった。

イ すくい取り調査による平均捕獲頭数は、南信地域では平年よりやや多く、中信地域では平年並であった。

(3) フタオビコヤガ幼虫（イネアオムシ）

ア すくい取り調査について、南信地域（諏訪地域）で捕獲され、発生地点率は平年と比べ高かった。中信地域の巡回調査地点では捕獲されなかった。

イ すくい取り調査による平均捕獲頭数は、南信地域で平年と比べ多かった。

ウ 25 株払落し調査による発生地点率は、南信地域では平年と比べ高く、中信地域では平年並であった。

エ 25 株払落し調査による平均捕獲頭数は、南信地域及び中信地域ともに平年と比べ多かった。

(4) 下伊那地域の巡回調査ほ及びその周辺地域の晩生品種（天竜乙女）について、イネツトムシのツト（内部は第2世代幼虫の終齢幼虫及び蛹）が広くみられた(写真4)。



写真3 イネ紋枯病の発生状況(白馬村)



写真4 イネツトムシの「ツト」内部の終齢幼虫(飯田市)